

中間考査に全力で取り組もう！

～中間考査は大切なハードルのひとつです～

GWが終わりました。この連休はみなさんの進路実現に向けて充実したものになったでしょうか？3年生は、来年1月のセンター試験当日を目標の到達点とすると、4月の新年度が始まってから約7分の1の時間が過ぎ去りました。あつという間ですね。すでに受験勉強の習慣が確立している人たちには、少しずつ手応えが実感できる時期になっているのかもしれませんが。あなたはどうか？

さて、今月22日(月)からは中間考査です。あと2週間となりました。各教科から試験範囲が提示され始めます。1&2年次の「予習→授業→復習」というサイクルは、受験教科目においては3年次でもそのまま維持するとよいでしょう。定期考査は知識をインプットし定着させる絶好のチャンスです。受験勉強が遅れがちな理科や地歴公民は、現在の努力がそのまま受験につながるのだという意識をもって考査勉強に励みましょう。

3年生は、受験勉強を開始し、部活動も3年間の総決算の時期でしょう。多忙なこの時期だからこそ、授業や定期考査を大切にすべきです。なぜなら、日々の授業・課題・定期考査は、教員団が大学受験という目標を見据えて設定した、ハードルのひとつひとつだからです。それらを確実に跳び越えることなしにゴールのテープを切ることはできません。各自がこれまでにやったことがないというほどの十分な準備を行って中間考査にのぞんでください。定期考査勉強は、言うまでもなく受験勉強の一環です。お忘れなく。

中間考査に向けての心構え 四箇条

1. 定期考査はゆとりをもって計画的に準備する

早くから少しずつ準備をすれば、毎日の学習量に無理がなくなります。短期間で(一夜漬けで)覚えたものは忘れるのも早いですが、時間をかけて繰り返し覚えたものは定着率も高まります。

2. 定期考査で勉強したことは受験にも必ず役立つ

忘れてしまっても、一度脳細胞にすり込まれた知識は、記憶の再生&定着が容易です。『受験記』を読むと、皆さんの先輩の多くが「定期考査の勉強が、受験勉強で大きな助けになった」と言っています。受験科目以外の科目もしっかりと授業に臨み、考査対策をすること。受験に不要だからと、「捨て科目」を作った先輩は、ことごとく上位志望校に不合格となっています。難関校ほど、教科・科目の垣根を嫌い、「知」の総合力を試す出題をします。受験生だからこそ、不動岡生だからこそ、すべての科目に全力投球してください。

3. 不動岡高校の授業は、受験学力もつくよう構成されている

定期考査の範囲をしっかりと学習することこそが、受験勉強の第一歩になります。学校の授業・教材をしっかりとこなすことが受験勉強の基本です。受験に失敗する者の多くは「受験勉強といっても漠然としていて何から手を付ければよいか分からなかった」と言いますが、志望校に合格する者は共通して「定期考査の範囲はしっかりと勉強しました。定期考査をうまく利用したことが受験成功に結びつきました」と言います。

4. 学校祭準備で忙しくても「けじめ」をつける

校門から一歩外に出たら学校祭は頭から消去。家に帰ったら、ひたすら「勉強」です。

進路室前の資料から

進路資料室前の机の上には、河合塾&駿台予備学校の模試案内だけでなく、いくつかの資料が置かれています。5月2日時点では、次の資料があります(必要な情報は自力で集めましょう！)。

◆ Z会「2017年度 入試分析資料差し上げます」

難関大志望者向けの通信添削で有名なZ会のチラシです。対象大学として、東京大学・京都大学・北海道大学・東北大学・筑波大学・東京工業大学・一橋大学・名古屋大学・大阪大学・神戸大学・広島大学・九州大学があげられています。これらの大学の今春の入試問題の分析資料が無料でもらえるのですから、申し込まない手はありません。知らなかった人は一階へ急げ！

◆ Z会『入会案内書 2017 高校生』

同じZ会でも、こちらの冊子は入会案内です。とは言っても、皆さんに「Z会に入りなさい」と言っているわけではありません。この冊子を開くと、難関大に合格した人の体験談だけでなく、教科・科目ごとに、どの時期にどの内容をどれくらい学習すればよいかのアドバイスが載っています。この一年間の学習計画を立てる際に参考になるのではないのでしょうか？

◆ 『合格サプリ 1月号』

「東大生・早慶生が編集した新感覚情報誌」と銘打たれたリーフレットです。1月号ですから、受験直前期に読むと効果的な特集が多いのですが、今この時期の君たちにもぜひ目を通してもらいたいのが、「試験開始前後の3分で差をつける」「現役合格の勝負の分かれ目！ 高3 0学期から始める理社対策！」「不合格体験記」の3本の特集です。

◆ 『UUnow(ユ・ノウ)』

こちらは宇都宮大学の広報誌。毎年、不動岡高校からも進学者がいる大学です。埼玉大学と並んで、最も近い国立大学でしょう。この号では、国際学部・地域デザイン科学部といった特色ある学部が特集として紹介されています。宇大志願者でなくても、こうした学問系統に興味がある人は、ご一読あれ！

進路コラム:近年の入試動向から③ ~教員対象・大学入試説明会から~

今回は「勉強法」についてです。各大学の入試担当者は、教員対象の大学説明会で必ず「教科書レベルの勉強をさせてください」「センター試験の問題を徹底的にやり込ませてください」「過去問を徹底的に勉強させてください」という3点を強調します。どれも受験業界では常識的なアドバイスばかりですが、毎年敢えて言っているということは、つまり、「基本的な問題を当たり前前に解くことができる受験生は意外と少なく、これができる受験生は合格する」ということです。どの大学のどの科目も、確かに難しい問題が出題に含まれています。しかし、合格を勝ち取る受験生は、教科書レベル、基礎レベルの問題(以前にもお話しましたが、「教科書・基礎=易しい」ではありません。応用問題を解く際にもつながる「基礎」、大学での高度な学習にもつながる「基礎」という意味です)を落とさずに、確実にものにできればいいのです。センター試験利用入試では、ボーダーライン付近の1点に数百人の受験生がひしめいているとも言われます。基本的な問題を確実に得点し、ケアレスミスを防いで1点を大切にしていける。このような「1点を大切に」受験勉強を心がけるようにしてください。毎日の授業への集中、受験した模試の見直し等を通して、こうした姿勢を身につけるしかありません。